

保坂世田谷区長、世田谷モデル(PCR行政検査+社会的検査)へ動き出す!

保坂区長の講演会「新型コロナウイルス世田谷区の奮闘」が市民ネット千葉県主催のオンライン学習会で行われました(2020年8月8日)。

区面積58平方キロ、人口92万人の世田谷区の現状は、8/5現在感染者累積1168人で入院134人・退院820人・死亡18人です。感染状況は東京都とほぼ同じ推移であり4/7のピーク時は30~50代が多かったが7/1~7/31は20~30代が多く(無症状・若者)、月初区外の飲食店での若者の感染から月末には家庭内・職場内感染へと移りだしている状況。障害者・高齢者施設や保育所等での感染は21件、保健所で感染ルートを追っているが保健所の担当する仕事が多すぎてオーバーワーク状況を呈しているとの事。



7/27 児玉教授や小原、大杉、加藤、窪田、吉本諸氏ら有識者会議で“世田谷モデル”が提示された。《保健所と医師会のPCR検査センターで360件の検体を検査しているが、かなり逼迫しているこの部分を600件検査できるようにする。又、更に介護・福祉・医療機関などの従事者に対して病状があろうがなかろうが無症状でもPCR検査をする社会的検査をしていく。そしてCOCOAの導入、トレーサーシステムを導入し保健所の仕事を切り離していきたい。》とのこと。

現在の360のPCR検査を3000件程度の検査体制に、行政検査と同時に社会的検査も出来る体制を作ることでニューヨークのように“いつでも・どこでも・何度でも”検査出来る体制をつくっていくのが世田谷モデルです。PCR検査器も大量に検査出来るオートメーションの機器の導入、1本の中に5人分の検体をいれ検査する「プール方式」で一挙に検査対象者を増やす。“無症状陽性者からも感染する新型コロナウイルス”なので社会的検査の導入をしなければ感染を制圧できないといった観点からの対応です。



保坂区長が7/28世田谷モデルを実践すると表明するとPCR検査に消極的な方々から何点かの批判がだされました。その点について保坂さんは次のように回答。

○「検査すれば陽性者が増え医療崩壊になる」との批判に対して

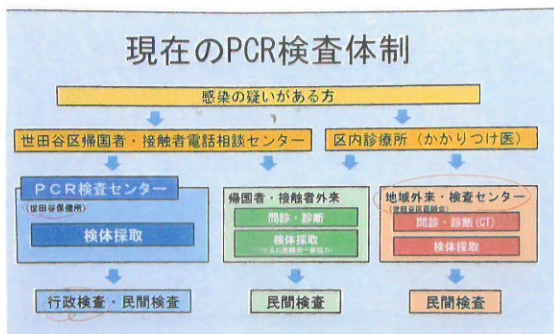
：検査せずに院内感染・施設内感染を出してしまったときの集団感染は数十~100名に及びこのときのほうが医療崩壊を起こしてしまう。事前検査でクラスターの発生を抑えるべき。無症状の陽性者は宿泊療養で確実に対応。

○「PCR検査は70%の確率。30%の擬陽性・擬陰性にどう対応するのか?」に対しては：70%を数回すれば確率は高くなる。WHOもいうように“検査・検査・検査”なのです。

70%を有効に活用したい。

保坂区長は「どうして日本ではPCR検査がやられない(世界159位)のか?」の問題点について①制度として感染症法から”保健所“をすべて通してやるシステムの問題点を指摘。これまで人員も施設も減らされた保健所では十分に対応できない。保健所の外に仕事をしていくスキームが必要。②明治以降の”発症したら検査して治療“の感染症対策しかとられておらず、”無症者からも感染するという新型コロナウイルス“に対しては明治以来の感染症対策の枠組みでは収まらない。にもかかわらず縦割り行政そのもので検査を拡大できない。と分析しました。

そして「増やせない体制があるからといって国の動向を見ている何も換わらない」「国から地方自治体への指示もなく、又国中の医療資源をすべて動員してコロナを制圧する政府の方針もなくリーダーシップもない」だから「寄付などの財源をもって、全国でやっていない・制度としてない・世田谷モデルを一転突破として実績を作りたい」とその思いを語りました。



ZOOM会議の中で宮川衆議院議員から国会状況についての発言もありました。

- ① 検体採種量が少ないと言った問題点は“唾液”での検査で
- ② 国の予算で検査機器が購入できるのだから多くの自治体が自動のPCR検査器を求めるべき(千葉県20台)
- ③ 情報共有のための「シーハス」を積極的に導入すべき
- ④ 厚労省の8/7の通知ではクラスター拡大防止のためには濃厚接触者でなくても行政検査でPCR検査が出来ると記載。と報告されました。

唾液や前鼻くうからの検体採取も今後増え検査がしやすくなると思われます。今こそ私たち市民が世田谷保坂区長の行動を支持し各自の自治体においても同じように検査を拡大していくように要請すべきです。

鎌ヶ谷市でも住民が8/6市長に対して「いつでもどこでも何度でも受けることが出来るPCR検査体制を一日も早く作ることを求める申し入れ」をしました。

住民の生命・健康・生活を守るのは自治体の役目です。鎌ヶ谷市長も力強く一歩を踏み出すべきです。



「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144
*活動報告HPに掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。